

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 大槌町社会福祉協議会	代表者	徳田 信也
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 ハイス こづち	管理者	三浦 正展

法人・事業所の特徴	大槌町社会福祉協議会(大槌町社協)は「この地域に住み続けたい」というみんなの願いの実現を目指し、行政機関、福祉団体等と連携し、地域住民の福祉の向上を図るために活動している民間の福祉団体です。小規模多機能型居宅介護事業所は、通いサービスと訪問サービス、宿泊サービスをひとつの施設で提供できる事業所です。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	0人	0人	2人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> ・事業所自己評価に取り組んでいることが分かった。 ・自己評価の結果の数値化により達成レベルの判断が難しいが、職員の前向きな取り組みが感じられる。 ・1対1のケアでは他の業務に影響がないか心配だが、状況によって臨機応変に対応していることが分かった。 ・利用者の状況により連絡してくれるので安心して利用できています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目の中には、内容が難しいものもあるが、利用者、利用者家族が安心してハイスを利用するにはどのような支援が必要かを全職員意識して支援に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> ・施設環境は清潔で良好であり、普段からの施設の施錠がされていないことは分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内、外の清掃や環境整備を行う。
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動(草刈り)に職員も参加している。 ・施設を知らない住民もいる様子なので、施設周辺の地域住民に施設の周知(PR)も必要ではないか。 ・笑顔での挨拶によって、親切で相談しやすく安心できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により地域住民が参加できるイベントの開催が困難であるが、開催される地域活動には可能な限り参加し、大槌町社協や事業所のPRをする。

D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺の散歩やドライブレクなど色々な場所に向いていることは良いことである。 ・職員が地域の会合などには参加したことがないため、今後どのような関わり合いが必要かの検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じてもらえるドライブレクの実施は感染予防対策を行い継続する。 ・地域の会合にも参加し、住民への事業所のPRや、意見を聴く場に参加する。
E. 運営推進会議を 活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議によって事業の取り組みについて理解できている。 ・地域に住んでいる方で心配な方はいる。事例検討までは実現しておらず、施設、民生委員、地域包括支援センターとの連携が必要なのではないか。 ・コロナ禍が落ち着いてからイベント等をやればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には、役場健康福祉課の方も出席されるので、会議の中で地域に気になる方の情報交換の場としての時間を設ける。
F. 事業所の 防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員にも防災計画を示してほしい。 ・災害時に頼りになる施設かは分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の中で、実施した土砂災害訓練、消防訓練を委員と共有する。